

岩舟地域会議だより

2016年8月 第4号

新しい地域自治制度が始まっています



平成29年度実施分 岩舟地域予算提案事業について

平成28年7月28日(木)岩舟地域会議 部会において、地域予算提案事業について協議しました。協議結果は以下のとおりです。

岩舟地域には豊かな自然・歴史、農産物がありますが、対外的な知名度はそれほど高くありません。岩船山をはじめとする自然、円仁や小野寺氏の歴史、神社・お寺等の文化財、豊かな土壌が育む農産物等、有力な地域資源を積極的に活用し、ふるさとをPRするため、地域会議では2つの事業を提案する予定です。

一つ目は岩舟の郷土歴史伝承事業です。岩舟地域の歴史年表の作成、歴史・文化講座の開催を通して岩舟の歴史を後世に伝えていくものです。



二つ目は岩舟のふるさとPR事業です。村檜神社、高勝寺などの文化財、慈覚大師円仁のような偉人、蕎麦・梨・ぶどう・いちご・トマト等の美味なる農産物を題材にPR動画を作成し、市内外に情報提供するものです。

地域予算提案事業って？

地域での課題を解決するため、一定の枠内で振り分けられる地域限定予算(平成29年度岩舟地域は291万円の予定)について、地域住民(地域会議)が予算の使い道(岩舟独自の事業)を市長に提案するものです。

市長は、提案された事業を次年度予算案に反映し、議会の議決を経て、市が事業を実施します。

平成28年度 第1回地域会議報告

日時 平成28年4月21日(木)

○議事1 報告

①平成27年9月関東・東北豪雨災害に関する検証報告書資料について

【総務部 危機管理課】

概要 昨年9月の豪雨災害について、災害状況、対応状況、今後の対応策を盛り込んだ検証報告書をまとめた。報告書を踏まえ地域防災計画を改訂する。

●主な質疑等については以下のとおりです。

Q 昨年の豪雨災害の際、学校は閉校なのに、同位置にある学童保育は開放するという事に違和感があった。横の連絡をお願いしたい。また、避難所においては女性に加え、乳幼児(を持つ親)にも配慮願いたい。

A 学校側とも連携は密にしたい。乳幼児についても配慮したい。

Q 小野寺南小は避難所として、ふさわしくないとされるが、地域防災訓練は予定通り実施するの
か？

A 地域防災訓練は小学校を順番に会場として実施している。順番では小野寺南小の番であり仮予約した。実施内容については昨年の豪雨災害を受け、検討しているところである。

↓後日、会場の見直しを行って遊楽々館に変更となった。

Q 地域防災訓練に参加して、行政関係職員が参集できないほどの災害が起きたら大変だということを感じた。住民もそういう思いになれば自主防災組織の必要性についてより強く感じられると思う。もっと自主防災組織についてPRしてほしい。

また、地元の指定避難所について言えば、建物の広さ、強度の面等不安はある。

A 自主防災組織については出前講座を通して組織の必要性についてPRをしていきたい。避難所については見直し作業をする。

Q 今後の対応策の項目がたくさんあるが全部するのは難しいと感じる。まちづくり実働組織については、防災組織の一面もあるという方向で進めていくべきと思う。

A 対応策については財政的な問題も伴うのでやれるものからやっていく。吹上地区では情報を一元的に受け、地区内にもれなく伝わるようなまちづくり実働組織の理念に近い仕組みをつくっている。

②平成28年度組織機構改編に伴う災害時における総合支所の体制について

【総務部 危機管理課】

概要 平成28年度組織機構改編に伴い総合支所は職員が減っている。災害時の総合支所の体制について定めた。

各地域に居住する職員及び各総合支所に勤務経験を有する職員を“地域応援班”の職員として以下の役割に充てる。

- (1) 総合支所に設置される各班の応援
- (2) 土のうの作成及び運搬
- (3) 総合支所長から指示のあった事項

平成28年岩舟総合支所は職員数が昨年より31人減の37名である。災害時は地域応援班22名に加え、道路河川の冠

水、倒木などの危険箇所の確認や通行止めへの対応をする4名の職員を加えた63名で対応する。

●主な質疑等

Q 行政職員はこのマニュアルに基づきどんな訓練をしているのか？

A 現在はしていない。今後計画する。



Q 地域応援班の応援職員数の根拠は何か？

A 昨年度と本年度の職員数の差の7割を応援職員数とした。本来に必要な職員数はさらに洗い出す必要はあると考える。

Q 同報系防災無線のスピーカーは特定の場所ごとに対応ができるのか？

A 地域を指定しての情報提供は可能である。

意見

災害対策本部周辺で緊急車両が故障したということだが、代替場所での災害対策本部の設置も検討が必要と思う。

第2回地域会議報告

日時 平成28年5月26日(木)

○議事1 報告

栃木市立小中学校適正配置基本方針について

【教育部 教育総務課】

概要 全国的な少子化が進行する中、市内の小中学校間でも教育環境の不均衡が生じている。この状況を解消するための適正な学校配置を推進するため基本方針を策定する。

ない。

Q 平成22年の市町村合併以降に学区の見直しはあったのか？

A また、意見として述べるが、学校教育はある程度の規模の集団生活を通して行われるものだと思うので、統合も選択肢として考えなくてはならないと感じる。それに伴って不便なことがあれば十分考慮してほしい。

A 学区の見直しはしていない。

Q 学校区ごとに説明会をしていくとのことだが、統合や学区の変更を考えるとより広い地区を対象とした説明会とするべきと考えるがいかがか？

A まずは現学校区ごとに説明をするということを進める考えである。

Q 栃木市ならではの小中一貫教育、とちぎ未来アシストネット事業とは何か？

A 栃木市ならではの小中一貫教育とは、特に中学でつまづかないよう9年間の義務教育を見据え、一貫性のある教育を推進するものであり、とちぎ未来アシストネット事業とは地域・家庭と連携し、開かれた特色ある学校をめざし、実施する事業である。

●主な質疑等

Q 教室が足りないほど大規模化しているところはあるのか？また、そういった地区にはどのように対応するのか？

A 現在、教室が不足するほどの学校はないので、対応は考えるという段階

○議事2

地域協議会等から提出された意見に対する市の対応状況について

概要 岩舟町地域協議会が平成26年9月6日に提出した意見書に対する市の対応状況を報告する。

●主な質疑等

Q 進んでいるもの、そうでないものがあったが、そうでないものに再要望は可能か？

A 可能である。

Q みかも山に建設予定の県の青少年施設について、進捗状況は？

A 栃木県生涯学習課に確認したところ、平成28年度は基本構想をつくる、予定地はみかも山周辺、平成35年度開所をめどに事業を進める。とのことである。

新委員紹介

岩舟地域自治会連合会 役員
の改選により、5月13日付で
川島章男氏が岩舟地域会議委員
に新たに選任されました。
任期は平成29年3月31日まで
です。

まぢづくり実働組織関連情報

先進地

「皆川地区街づくり協議会」を知る

5月26日（木）岩舟ふるさとセンターにおいて静和2区が、皆川地区街づくり協議会を招いて、勉強会を開催しました。



皆川地区街づくり協議会は、今年3月、栃木市の新しい自治制度である「まちづくり実働組織」に栃木市内でいち早く認定を受けています。

そこで静和2区では、皆川地区街づくり協議会で設立に携わった中心人物である関口茂一郎氏、行政的な側面支援をする大塚皆川公民館長を招きました。

最初に関口氏から街づくり協議会設立から現在に至るまでのお話を伺いました。内容は以下のとおりです。

「平成14年に皆川地区を何とかしたいという思いを持った住民15名が集まり、「街づくり研究会」を作って2、3ヶ月に一度地区のまちづくりについて話し合いをした。

3年間ぐらい話し合ったが、集まって話し合うこと自体が目的となってしまう、お茶飲み会のような状況になってきた。

会員の中に一人、以前から皆川城址について調べている人がいて、城址公園で何かイベントをし、地域の活性化を図ろうということになった。

平成17年度に事業所から寄付金を募って城址公園で「あんどんまつり」を実施したが、財源と人手が不足したため、組織を強化することにした。

平成18年2月に地域内の20自治会に協力を求め、各自治会から1名の役員を選び、各戸300円（現在は各戸500円徴収）の集金をすることとして、「街づくり協議会」を発足させた。反対の声もあったが、地域全員の合意を得るということは難

しい。お茶飲み会でなく一歩踏み出すということで組織を強化した。皆川地区の人でさえ本会の活動に賛同している人は2割くらいという自己認識である。

平成28年3月、「皆川地区街づくり協議会」は栃木市初の認定実働組織となった。

●その後の質疑等

Q 若い世代の参加率はどうか？後継者の育成は？

A 現実的に50代以下の委員は少ない。その年代は現役で働いており、あてにしても仕方ないので、65歳以上のリタイア組を仲間に取り込むことになっている。現委員の平均年齢は70歳を超えていると思う。

後継者の育成はあまり考えていない。また考えても仕方がない。今、動ける人が、自分たちの意思で地域のために活動しているだけ。先ことは次の世代が考えればよいと思う。

Q イベントにはボランティアが必要だと思うが、集めるのに苦労はあったか？

A まず各自治会から1名出してほしいと協力を求めたが、城址公園の草刈が大変だと、いやいや参加している人



とちからコスもん

もいた。毎年度1名ずつ出してもらっているが、年度が替わっても残っている人がいて、少しずつ増えている。



Q まちづくりを始める前と比べて地域はどう変わったか。

A 少しずつだが、地域内にまちづくりに対する思いが芽生えてきたと思う。

仮称「小野寺ふれあい会」発足

6月1日(水) 小野寺地区公民館にて、北小学区の設定準備会代表者会議を開催しました。この中で今後の会の名称について話し合いがあり、(仮称)「小野寺ふれあい会」として話し合いを進めることにいたしました。



地域の話題

岩舟地域自治会連合会が開催

これまで「小野寺北小学区まちづくり実働組織」という名称を使用していたが、実働組織という呼び方は一般的でないという理由で、今後は(仮称)小野寺ふれあい会として、様々な団体と話し合いを重ね、より良い事業を企画し、実行していくことになりました。

5月8日(日)「岩舟地域自治会連合会総会」が遊楽々館で開催され、岩舟地域自治会長76名が集まりました。総会では平成27年度事業報告、決算報告、監査報告、平成28年度事業計画、平成28年度予算、平成28年度新役員案等が承認されました。平成28年度新役員は以下のとおりです。

会長	川島 章男(鶴巻)
副会長	瀬下 正夫(茂呂新田)
理事	外村 芳巳(下岡)
理事	田中 由弘(静和駅前第三)
会計	池田 正(五斗内)
会計	時田 正二(下津原新田上)
監事	柴田 崇(馬宿東)
監事	関口 一好(羽田)

ふれあいトーク開催される

栃木市ふれあいトークが7月15日(金)、19日(火)、20日(水) 岩舟公民館、静和地区公民館、遊楽々館でそれぞれ開催されました。これは市長や市幹部が直接地域に向き、参加者と直接意見を交わすとともに市の主要事業を説明するものです。

岩舟地域3会場で約120人が参加し、道路改良、思川開発、不法投棄、



辺の地方都市リノベーション事業、空き家の有効活用や市内に新築住宅購入者を支援する定住促進事業、自治会に対する防災ラジオの無償配布について説明しました。

学校適正配置基本方針等身近な疑問、要望について意見を交換しました。市は主要事業として旧市役所周

岩舟地域会議だより第4号

平成28年8月19日発行

岩舟地域まちづくりセンター

(岩舟総合支所 岩舟地域づくり推進課)

〒329-4392

栃木市岩舟町静5133番地1

電話0282-55-7751 fax0282-55-4910

E-mail:i-chiiki@city.tochigi.lg.jp